

ベタの飼育・観察・繁殖

石原愛華

沖縄市立越來小学校3年



1. 目的・動機

(1) 目的

闘魚を飼育し、観察する時の目的を4つ考えました。

- ・闘魚と言われているオス同士は一つの水そうで飼えないのだろうか？
- ・オスの習性は、どのくらいの時間で出てくるのだろうか？
- ・メスもオスと同じ習性をもっているのだろうか？
- ・繁殖は、可能だろうか？

(2) 動機

小さい頃から、金魚やグッピーを飼っていて、幼稚園の頃、お母さんや幼稚園の先生が、「鏡を見せると怒る魚がいるよ！しかもオス同士を一緒に飼うと、死ぬまで闘うんだよ！」と教えてくれました。闘う魚ってどんな魚だろう？闘う姿を見たい、育ててみたいと思ったのがきっかけです。

2. 方法・内容

実際に闘魚を観察する前に、闘魚について調べてみました。最初に、沖縄市立図書館で、大まかなとくちょうや種類を調べてみようと思ってきました。けれど、闘魚の本が1冊もなく残念でした。次に、ペットショップの店員さんに闘魚の種類や特徴、飼育する環境などの話を聞きに行きました。店員さんの話では、オス同士を1つの水そうで飼うと、死ぬまで闘うので絶対にダメと言われました。書店にあった本にも同じように書かれていました。

次に、実際に水そうで闘魚を飼って本当にそうなのか調べてみました。

(1) 準備したもの

小さめの水そう：

闘魚がヒレを十分に広げられて、1～1.5リットルの水を入れられる水そうを準備しました。

温度計：

闘魚を飼育するための適温は、25～28℃です。特に、夏場は水温が上がりすぎないようにせんぷう機や冷房をつけて注意しました。

エサ：

1～2mmくらいの小粒の闘魚用のエサを準備しました。

水草（アナカリス）：

水草は水質悪化を防止するためです。また、産卵やメスのかくれる場所にもなります。アナカリスは、水草の中では手入れが簡単な種類だそうです。

(2) 観察

別々の水そうに入っている闘魚を観察しました。闘魚のオスは、赤や青など派手な色をしていて、ヒレを大きくゆらしながら泳いでいるのでとてもきれいです。体長は5～7 cm位です。メスは、オスよりも小さく体長は3～4 cmくらいです。体の色も黒や灰色で見た目もオスのようにひらひらしたヒレがなく、シンプルです。

(闘魚のしょうかい)

(オス・・・ハッピー、タッピー、ブルー)

(メス・・・ミミー、ヤミー)

①ハッピー (オス)・・・体長は4.5 cmで少し小さいです。

ヒレは、真っ赤な色をしていて、広げるととてもきれいです。他のオスに比べると動きが早く元気があります。となりのオスを見ると、エラぶたを広げていかくします。

②タッピー (オス)・・・体長は、7.5 cmで一番大きいです。

赤と青がまざっています。ヒレが大きくて、ひらひらしてきれいです。

③ブルー (オス)・・・体長は6 cmでやや大きめです。

ヒレは、3つに分かれています。体の色は、ヒレ半分からオーロラみたいな色で、ヒレ先は濃いブルーをしていてきれいです。

④ミミー (メス)・・・オスに比べると小さく4 cmほどです。

体は、全体的に赤と黒が混ざっている感じで、尾びれだけに線の様な模様と水玉模様が入っています。オスに比べると動きは、ゆっくりしています。

⑤ヤミー (メス)・・・体長は、3.5 cmで一番小さいです。

体は、全体的に薄い黒色で、しま模様をしています。

(実験)

①別々のすいそうに入れたオスのハッピーとブルーの水そうを近づけて置いたり、鏡を向けたりしました。すると、エラぶたを大きく広げていかくすることが分かりました。

②いよいよ、仕切り板をした状態の水そうにハッピーとブルーを一緒に入れて、どうなるのか様子を見ました。2匹とも1分くらいまでは、相手の様子を見ているようでジッと静かにして動きませんでした。2分、3分とだんだん時間がたってくると動きが出てきて、互いに見つめあい相手に近づいてきました。4分後、一瞬2匹とも怒ったようにエラぶたを大きく広げたり、閉じたりと落ち着きがなくなりました。



仕切りを板をした状態



威嚇しながら見ている状態

③ドキドキしながら仕切り板を外してみました。2匹は、近づいたり離れたり相手の様子を見ている感じでした。5分くらいたった頃、ブルーがハッピーを攻めるような様子を見せました。ハッピーもブルーを攻めようと向かいましたが、水そうのはしに逃げてしまいました。8分くらい2匹の様子を見ていましたが、少し闘うような動きはありましたが、ずっと激しく闘うことはしませんでした。様子を見ている時は、死ぬまで闘うと思ったのでドキドキして少し怖かったです。



仕切り板を外すと激しく威嚇しあう



水槽のはじっこに逃げてしまった

④ミミーとヤミーのメス2匹を一緒の水そうに入れると、どうなるか観察しました。オスのようにいかくはせず、仲良く泳いでいました。



メスは1つのすいそうでも仲良し

(繁殖)

- ①オスの水そうのはしっこに泡が浮いていました。調べてみると、泡は泡巣（あわす）といい、メスが産卵するための場所のことでオスが口から泡を出して作っていました。
- ②泡がふえてきたのでメスを入れてみようと思い、メスを水そうに近づけてみるとオスがエラぶたを広げていかくしてきました。1度だけ、オスとメスを同じ水そうに入れましたが、闘いそうだったのですぐに出しました。メスを入れるタイミングを見ていると泡がなくなっていました。
- ③その後、何度かチャレンジしてみましたが、タイミングがとれず、一緒の水そうに入れることができず、はんしょくまでさせる事が出来ませんでした。

3. まとめ（わかったことと考えたこと）

- 闘魚は他の魚と違って、水がある程度汚れても平気のようでしたが、水草を入れたり、1～2週間に1回水を変えるなどして水そうをきれいにするようにしました。
- エサは勢いよく食べますが、はき出すこともありました。本には、エサをはき出すこともあるけれど、根気よくあげることが大事だと書いてありました。
- 幼稚園の時の先生の話では、闘魚のオスは長時間闘わせると体がぼろぼろになり、死んでしまうと聞いていたので、水そうを隣同士に置く時は互いの姿が見えないようにしきりを置くようにしています。
- 別々のすいそうに入れたオス同士を近づけると、互いにすぐにエラぶたを広げていかくしました。また、メスの入った水そうを近づけたり、鏡を見せてもオスは同じようにいかくしました。けれども、同じ水そうにオスを2匹入れた時にはすぐにはいかくしたり、はげしく闘ったりしなかったのが、ちょっと残念でした。もう少しはげしく闘うのを見てみたかったです。今回は8分ほど観察してみましたが、今度はもう少し長い時間様子を見て、激しく闘うかどうか知りたいと思いました。今後も継続して観察していきたいです。
- 最初はメスもオスと同じように水そうに1匹ずつ飼っていましたが、1つの水そうに何匹入れてもメス同士だと互いにいかくすることもしないし、闘うこともしないことがわかりました。今はメスについては同じ水そうで飼っています。
- 今回の実験では、はんしょくは成功しませんでした。オスの水そうに泡巣ができましたが、メスを水そうに入れようとするとオスがメスを攻撃しそうになり、一緒の水そうに入れることができませんでした。ペットショップの店員さんにどうしたらいいのか聞いてみると、オスとメスの相性を見ながらするといいと聞きました。今度は、オスとメスの相性も見ながら、タイミングも合わせて赤ちゃん闘魚を増やしてみたいです。

